

全国青少年奉仕委員長（RYLA 委員長）会議参加者

地 区	所属クラブ	氏 名	役 職 名
2500	紋 別 港	鶴見誠一郎	地区ガバナーエレクト
2500	帯 広 西	小谷 典之	地区ガバナーノミニー
2500	釧 路 ベイ	葭本 正美	地区 PDG
2500	旭 川 北	東堂 明	地区 PDG
2500	釧 路	吉田 潤司	地区 PDG/RIJYEM 社員
2500	釧 路 ベイ	漆崎 隆	地区副ガバナー /PDG
2500	北 見	下元 陽司	地区ライラ委員長
2500	富 良 野	石平 清美	地区米山記念奨学会運営委員長
2500	帯 広	野村 文吾	地区社会奉仕委員長
2530	喜 多 方	佐藤 正道	地区ガバナー
2530	福 島 中 央	芳賀 裕	パストガバナー
2530	福 島 中 央	箭内 一典	県北第一分区 ガバナー補佐
2530	福 島 中 央	佐藤 龍史	県北第一分区 分区幹事
2530	須 賀 川	大木 和彦	青少年奉仕委員会 委員長
2530	南 相 馬	岡田 義則	青少年奉仕委員会 副委員長
2530	福 島	佐藤美奈子	青少年奉仕委員会 RYLA 委員会 委員長
2530	白 河	田代 行孝	青少年奉仕委員会 RYLA 委員会 委員
2530	白 河 西	中目 公英	次年度 青少年奉仕委員会 RYLA 委員会 委員長
2530	保 原	菅野 拓司	次年度 青少年奉仕委員会 RYLA 委員会 委員
2530	福 島 2 1	渡辺 浩子	ローターアクト委員会委員長
2550	足 利 東	中谷 研一	RI 研修リーダー（2023年）/パストガバナー / 危機管理委員長
2550	宇 都 宮 北	二十二 修	ガバナー補佐 / 青少年奉仕委員長
2550	宇 都 宮 南	仲田 俊夫	ガバナー補佐
2550	宇 都 宮 南	中野 智之	次期青少年奉仕副委員長
2550	宇 都 宮 北	藤田 克彦	R Y L A 委員長
2550	宇 都 宮 南	長谷川博夫	次期 R Y L A 委員長
2550	宇 都 宮 北	大橋 義弘	R Y L A 委員
2570	本 庄	高柳 育行	パストガバナー
2580	東京東江戸川	嶋村 文男	ガバナー
2580	東 京 福 生	石川彌八郎	ガバナーノミニー
2580	東京臨海西	飯塚 憲貴	地区青少年交換委員長
2580	那 覇 西	照屋 俊幸	
2590	神 奈 川	樋口 明	ガバナーエレクト
2590	横 浜 泉	飯田 信也	2023-24 地区青少年奉仕委員長
2560	大 阪 東	片山 勉	パストガバナー
2560	吹 田	富永 明	地区 RYLA 委員会 次年度委員長
2560	茨 木	土方 慶之	地区 RYLA 委員会 次年度副委員長
2560		田中康太郎	Team RYLA
2570		大通 龍治	RYLA
2680	姫 路	安平 和彦	RYLA 顧問・パストガバナー
2680	神 戸 須 磨	滝澤 功治	RYLA 顧問・パストガバナー
2680	三 田	安行 英文	ガバナーエレクト
2680	西宮イブニング	黒田 建一	青少年奉仕副委員長・危機管理委員長・ローターアクト副委員長
2680	神 戸 東 灘	舟元美智子	青少年奉仕委員長

地 区	所属クラブ	氏 名	役 職 名
2680	伊 丹	田中 賢一	危機管理副委員長・ローターアクト委員長・RYLA 委員
2680	川 西	北川 博崇	RYLA 委員長
2680	宝塚ユニバース ロータリー衛星クラブ	阪本 渚子	ローターアクト副委員長
2680	上 郡 佐 用	池田 雅子	RYLA 委員
2680	あわじ中央	徳梅 明彦	RYLA 委員
2680	神 戸 西 神	伊藤 幸美	RYLA 委員
2680	神 戸 西	植田 晃行	RYLA 委員
2680		小林 雅美	RYLA 学友
2680		阪本龍太郎	RYLA 学友
2690	津 山	土居 大介	地区青少年奉仕委員長
2690	松 江 東	天野 正道	次期地区青少年奉仕・RYLA 委員長
2690	松江しんじ湖	石倉 貞昭	地区ガバナーエレクト
2700	小 倉 南	西島 英利	地区ガバナー
2710	広 島 南	井内 康輝	ガバナーエレクト
2720	日 田	膳所 和彦	ガバナーエレクト
2730	加 治 木	笹山 義弘	地区ガバナーノミニー
2730	加 治 木	岩澤 浩二	地区ロータリー学友委員長
2730	霧 島	前田 嘉郎	地区 RAYL 委員
2740	佐 賀	野口 清	パストガバナー
2740	唐 津	徳川 清隆	地区 RYLA 委員長
2740	大 村	太田 陽子	次年度地区 RYLA 委員長
2740	諫 早 北	崎田 英介	地区 RYLA 委員
2740	太 良	秀島 寛	第 3 グループガバナー補佐
2750	東京八王子西	三浦 眞一	パストガバナー
2750	東 京 三 鷹	宮崎陽市郎	ガバナーエレクト
2750	東京山の手	片岡 郷	地区ローターアクト委員長
2760	名 古 屋 南	吉川 公章	地区ガバナーノミニー
2760	瀬 戸	田中 靖達	RYLA 委員会 委員長
2760	豊 田 西	大谷 忠幸	RYLA 委員会 副委員長
2760	豊橋ゴールドデン	牧 岳大	委員
2760	豊 田 西	土面 尋志	委員
2760	愛知ロータリーE	山下 惟人	委員（次年度）
2760		大野 真以	委員
2760		小島 夏帆	委員
2760		伊豫田結衣	委員
2770	大 宮 南	佐藤 誠	次年度地区青少年奉仕部門委員長
2780	相模原柴胡	清水 寿人	RYLA 委員長
2780	相 模 原 南	杉崎 信一	ガバナー補佐
2800	山形イブニング	松岡 友路	2022-23 年度 RYLA 小委員会委員長
2800	余 目	渡部 晃	2023-24 年度 RYLA 委員会委員長
2820	つくば学園	今川 武彦	ライラ委員長
2830	五所川原イヴニング	成田 秀治	パストガバナー
2830	五 所 川 原	花田 勝彦	ガバナーノミニー
2830	青森モーニング	鈴木 唯司	地区危機管理委員長

全国青少年奉仕委員会 (RYLA 委員長) 会議 参加者

地 区	所属クラブ	氏 名	役 職 名
2830	青 森	三浦 基	地区 RYLA 委員長
RIJYEM		津留 起夫	事務統括
RIJYEM		武内 陽子	事務統括
RIJYEM		斉藤 睦美	事務局
2510	岩 見 沢	西方 洋昭	全国 RYLA 研究会実行委員 / 直前地区 RYLA 委員長
2510	岩見沢ネクスト	佐藤 直樹	第 15 回全国 RYLA 研究会実行委員
2510	栗 山	松下 早苗	第 15 回全国 RYLA 研究会実行委員 / ガバナー補佐
2510	札 幌 北	小林 博	パストガバナー
2510	札 幌 北	出村知佳子	ガバナーノミニー
2510	札 幌 北	藤城 英明	次期ガバナー補佐
2510	札 幌 北	姫野 芳安	次期クラブ会長エレクト
2510	札 幌 北	黒川 篤	地区公共イメージ向上副委員長
2510	札 幌 北	中村 越子	全国 RYLA 研究会実行委員
2510	札 幌 北	大舘 政弘	地区 RYLA 委員
2510	札 幌 北	林 里紅	全国 RYLA 研究会実行委員
2510	札 幌 西	石丸修太郎	ガバナー
2510	札 幌 手稲	福井 敬悟	パストガバナー
2510	札 幌 手稲	福井 幸代	パストガバナー令夫人
2510	札 幌 手稲	平川 香織	全国 RYLA 研究会実行委員 / 地区 RLI 委員長
2510	札 幌 東	福見 隼人	全国 RYLA 研究会実行委員 / 地区インターアクト委員長
2510	札 幌 東	山口 史朗	全国 RYLA 研究会実行委員 / 直前地区青少年奉仕委員長
2510	札 幌 東	若原 秀明	全国 RYLA 研究会実行委員
2510	札 幌 幌南	荒木 俊和	全国 RYLA 研究会ホストクラブ
2510	札 幌 幌南	伊藤 利道	全国 RYLA 研究会ホストクラブ会長
2510	札 幌 幌南	蝦名 大典	全国 RYLA 研究会ホストクラブ
2510	札 幌 幌南	大作 佳範	全国 RYLA 研究会実行委員
2510	札 幌 幌南	加賀 謙二	全国 RYLA 研究会ホストクラブ
2510	札 幌 幌南	加藤 康夫	全国 RYLA 研究会ホストクラブ
2510	札 幌 幌南	北川 好和	全国 RYLA 研究会実行委員 / 地区クラブ奉仕委員長
2510	札 幌 幌南	工藤 元紀	全国 RYLA 研究会ホストクラブ
2510	札 幌 幌南	小里 学	全国 RYLA 研究会ホストクラブ
2510	札 幌 幌南	小林麻由美	全国 RYLA 研究会ホストクラブ
2510	札 幌 幌南	斉藤 朋博	全国 RYLA 研究会ホストクラブ / 地区 RYLA 委員長
2510	札 幌 幌南	佐藤祐一郎	全国 RYLA 研究会ホストクラブ
2510	札 幌 幌南	里見 英樹	全国 RYLA 研究会ホストクラブ
2510	札 幌 幌南	島田 学	全国 RYLA 研究会ホストクラブ
2510	札 幌 幌南	菅野 亮	全国 RYLA 研究会ホストクラブ
2510	札 幌 幌南	高橋 耕	全国 RYLA 研究会実行委員 / 地区ローターアクト委員長
2510	札 幌 幌南	高橋 恵	全国 RYLA 研究会ホストクラブ
2510	札 幌 幌南	中村 笛美	全国 RYLA 研究会ホストクラブ
2510	札 幌 幌南	長沢 祐純	全国 RYLA 研究会ホストクラブ / 地区ポリオプラス委員長
2510	札 幌 幌南	羽部 大仁	全国 RYLA 研究会実行委員長 (PG)
2510	札 幌 幌南	深貝 亨	全国 RYLA 研究会ホストクラブ
2510	札 幌 幌南	舩田 雅彦	全国 RYLA 研究会ホストクラブ

地 区	所属クラブ	氏 名	役 職 名
2510	札 幌 幌南	森 剛	全国 RYLA 研究会ホストクラブ
2510	札 幌 幌南	森尾 薫	全国 RYLA 研究会ホストクラブ
2510	札 幌 幌南	池田 達昭	全国 RYLA 研究会実行委員 / 地区青少年交換委員長
2510	札幌大通公園	鈴木 抄織	全国 RYLA 研究会実行委員 / 地区学友委員長
2510	小 樽 南	松浦 光紀	ガバナーエレクト
2510	室蘭北RAC	小椋 圭修	第 2510 地区代表
2510	室蘭北RAC	伊林 大河	第 2510 地区幹事
2510	赤平 RAC	長谷川大介	
2510	赤平 RAC	臼谷 七	

分科会

分 科 会

分科会A 「RYLA の課題」

分科会統括・ファシリテーター 安行 英文 D2680 三田ロータリークラブ

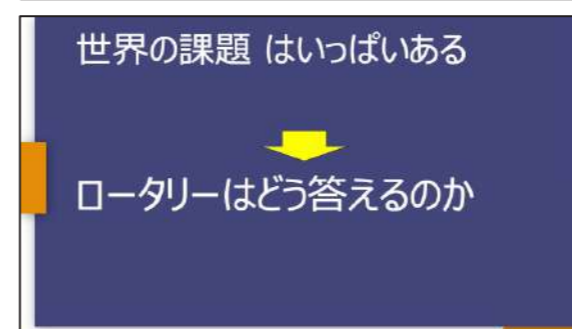
分科会B 「カウンセラーシステムとは何か」

分科会統括・ファシリテーター 黒田 建一

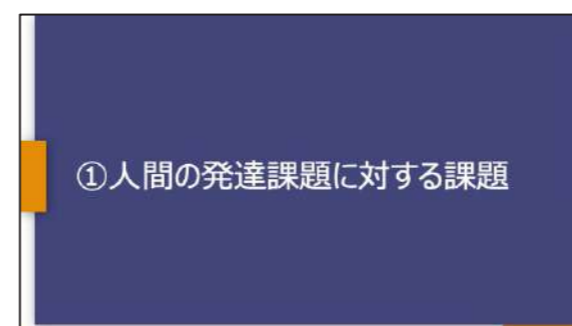
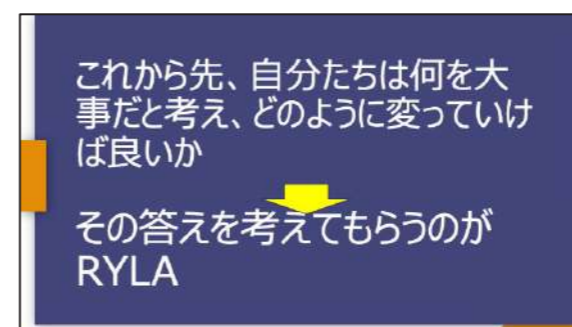
分科会C 「学友会について」

分科会統括・ファシリテーター 田中 賢一

分科会A



生命倫理、出生前診断、生殖補助医療、代理母、脳死、臓器移植、安楽死、遺伝子操作、環境倫理、環境保護、公害、資源の分配、世代間倫理、食物倫理、動物倫理、ロボットりんりん、広告倫理、峯道倫理、戦争倫理、宇宙倫理、差別問題の倫理、教育の倫理、政治の倫理、性の倫理など



人は幼少期から青年期にかけて、自立や協働の能力を身につけ、人生に対する信念体系（アイデンティティ）の確立をはかり、一人前の社会人となる準備をする。このような青少年期の発達課題の達成には、多様な生活体験と、同年齢、異年齢の両方を含む、豊かな人間関係を欠くことは出来ない。それによって青少年は自主的に自らをコントロールすることをはじめ、創意工夫、積極的な人生へかまえ、道徳や社会規範、他者との協力や共存の能力、態度を学ぶのである。現代の我が国の

社会は、そのような生活体験と人間関係を体得できる場と機会を青少年から奪ってしまった。乏しい生活体験、稀薄な人間関係にとり囲まれた日常生活である。ここから、孤立、自信欠如、ひきこもり、不登校などの非社会的行動や、いじめ、非行などの反社会的行動も生じやすい。ライラは青少年の発達課題に就いて、成長のために不可欠な経験を意図的に充足する効果的な方法である。また、ライラは幼児から高齢者まで様々な年齢層、健康、福祉、医療などまたさまざまな分野での人を援助する活動がもつ課題に応えるすべを備えている。



人生80年時代と言われる、かつてない長寿社会が到来したが、一方、現代人を取りまく環境は心身ストレスを生む要因に満ちている。心身の調和と健康を維持するのは容易なことではない。健康とは、身体に病気や障害のないことではなく、身体的には、自己の与えられた器官を最高に用いることであり、精神的、社会的側面を加えた全人的な人間存在の健全度を示すものである。したがってウェルネスも、人間の健康を最高に保ち増進するための思想であり、日常の実践を意味する。ライラは年齢や立場を越えて、そのようなうねねすの思想や実践を習慣として身につけるのにもっとも有効な方法である。



現在の環境問題は、地球の生体系を破壊し、人類の滅亡をすら予測させるほどの深刻なものである。ライラは従来自然を素材としてきた。しかし、自然はそれ以上に人類の生存の根源である。単に利用することから、自然を守り、自然と共存する態度の確立が迫られている。人類共通の財産である自然を正しく理解し、それに対する科学的な態度や行動を自らのものとして内在化する環境倫理は、教室で教えるだけでは効果が期待できない。ライラを通して、真摯に、直接自然と出会うなかで環境教育の実りが期待できる。

分科会 A

ライラは地域・ロータリーに役に立つのか

現在の環境問題は、地球の生体系を破壊し、人類の滅亡をすら予測させるほどの深刻なものである。ライラは従来自然を素材としてきた。しかし、自然はそれ以上に人類の生存の根源である。単に利用することから、自然を守り、自然と共存する態度の確立が迫られている。人類共通の財産である自然を正しく理解し、それに対する科学的な態度や行動を自らのものとして内在化する環境倫理は、教室で教えるだけでは効果が期待できない。ライラを通して、真摯に、直接自然と出会うなかで環境教育の実りが期待できる。

ライラは現代社会がもつ歪みや欠陥が生み出す人間の問題状況の回復や改善に有効



ライラ受講生

『おわりに』

個人やグループを軽視した
集団主義が先行したり、時
間や行事の消化に負われ
るインパクトを測れない短期
間のものは避けるべきである。

カウンセラーシステムとは何か

2023年5月21日（日）
於 札幌グランドホテル
R I D 2 6 8 0 危機管理委員長
R I D 2 6 8 0 青少年奉仕副委員長
R I J Y E M 研修部門委員
西宮イブニングRC 黒田建一

カウンセラーとは

- ・2680地区の場合1班（約10～12名）に男女各1名を配置。セミナー期間中、受講生と起居を同じにする
- ・初めて出会った受講生達を集団生活の中で集団進化（進歩ではない）に関わる
- ・その存在はエンカウンターグループの方式に由来する
- ・ファシリテーターであって、何もしない訳ではなく、一方で何かにつけて手助けをする役割でもない
- ※ファシリテーションとエンカウンターグループについては後述

1. エンカウンターグループ（EG） （1）定義

- ①「自己理解や他者理解を深めるという個人の心理的成長を目的として、」
- ②「パーソンセンタード・アプローチ（PCA＝心理療法の1つ）の基本的視座を持つ1～2人のファシリテーターと10人前後のメンバーが、」
- ③「集中的な時間の中で」
- ④「各人が自発的・創造的に相互作用を重ねつつ、安全・信頼の雰囲気を形成し、そこで起こる関係を体験しながら、率直に語りあい聴きあうこと」
- ⑤「を中心に展開するグループ経験である。」

（2）EGの発展段階

1. 導入段階
 - ① 当惑・模索
 - ② グループ目的・同一性の模索
 - ③ 否定的感情の表明
2. 展開段階
 - ① 相互信頼の発展
 - ② 親密感の確立
 - ③ 深い相互関係と自己直面
3. 終結段階
 - ① グループの感想、日常への意欲
 - ② グループへの不満←Fは一応のおさまりをつけるを試みる

（3）個人プロセスモデル

- ① 主体的・創造的探求プロセス
自発的・自主的に、そのグループの進め方、自分と他者との関わり方、自分のあり方を絶えず新たに探し求めていく過程
- ② 開放的態度形成プロセス
自己・他者・グループについて、気持ち・感情を取りつくろわずに率直に表現するとともに、他者の自分・その人・グループについての気持ち・感情の表現を構えずに率直に傾聴する過程

③ 自己理解・受容プロセス

- 自己について発見・再発見をし、またそのような自己を率直に認める過程
- ④ 他者援助プロセス
他者の自己理解・受容、自己変化、自己成長を促進するような言動をおこなう過程
 - ⑤ 人間理解深化プロセス
人間（他者）についての見方・認識がより深くかつ広くなる過程
 - ⑥ 人間関係親密化プロセス
相互の密接で開放的で直接的な関係が深まり、親近感、統合感、連帯感、好感、共存感が強まる過程

2. ファシリテーション

（1）ファシリテーターの役割

- ①グループ全体を見る
- ②グループへの所属感を保証する
- ③攻撃された人を守る
- ④メンバー1人1人のペースを守る
- ⑤プロセスの展開に応じた柔軟な対応
- ⑥グループを無理に進めない

（2）ファシリテーションとは

- ① 風土づくりの機能としての注意深く正確、敏感な傾聴
- ② ありのままのグループの受容
- ③ ありのままのメンバーの受容
- ④ メンバーに対する共感的理解
- ⑤ 自分の内部で起こっていることを信頼して動く
- ⑥ 自分の気持ちを伝えるというかたちでのフィードバックおよび対決
- ⑦ 自身も問題を抱えているときはそれを表明することも重要
- ⑧ 自発性が最も重要であり、あらかじめ計画されたワークは避ける
- ⑨ ファシリテーターからのグループ・プロセスの解説や注釈は避ける
- ⑩ メンバーの病的行動に対してもグループの持つ援助的潜在力を信頼する
- ⑪ 自発的な身体表現や身体接触を大事にする

（3）ファシリテーションの実施に当たっての注意点

- ① 巧みなFはかえって人の主体性を弱くしてしまう可能性がある
- ② 大きな特権や力を持つファシリテーターはそのことに十分自覚的でなければならない。
- ③ Fの遂行を単純化し、形骸化させてしまう危険性がある
Fを会議効率化のノウハウと考えることなど
- ④ Fについての解説本への依存→方法のマニュアル依存
- ⑤ 解説本には基礎的枠組みの説明を欠き、ハウツーだけを伝えるに終わっているものが多い

（4）ファシリテーターの役割

- ①グループ全体を見る
- ②グループへの所属感を保証する
- ③攻撃された人を守る
- ④メンバー1人1人のペースを守る
- ⑤プロセスの展開に応じた柔軟な対応
- ⑥グループを無理に進めない

分科会 B

(5) ファシリテーターの育成

- ・ファシリテーターはPCAの理解を必要とする
 - ・ファシリテーターの育成はPCA⇒EGによる
 - ・ファシリテーターは「技法」によるのではなく「態度」による
 - ・「技法」は単なるハウツーの暗記—おうむ返し of 弊害
 - ・「態度」は「技法」の目的と意味を理解し、本来の目的であるEGの効果的な展開に結びつくもの
- ※PCA (Person Centered Approach) とはカール・ロジャーズ (臨床心理学者) が主張した心理療法

11

御清聴有難うございました。

12

分科会 C

Rotary

RYLA学友会について

2680地区
伊丹RC
田中賢一

1

今井鎮雄先生が
なぜRYLA学友会を
構想されたのか？

2

今井先生が
RYLAセミナー
で大切にされたもの

3

2680地区の
RYLA学友会は
どのように立ち上がったか？

4

2680地区の
RYLA学友会の
運営の実際

5

ロータリーは
なぜRYLA学友会に
かかわるのか？

6

ロータリーは
RYLA学友会に
どのようにかかわるのか？

7

ディスカッションテーマ

- ①各地のRYLA学友会の実情
- ②RYLA学友会の活動に期待すること
- ③ロータリーがRYLA学友会に
どのようにかかわるべきか？

8

これからの RYLA と危機管理

ロータリー活動に おける危機管理について

令和5年5月21日(日)

於 札幌グランドホテル

第15回全国RYLA研究会

RI第2680地区危機管理委員長
同青少年奉仕副委員長
RIJYM研修部門委員
西宮イブニングRC 黒 田 建 一

1

なぜ危機管理か？

- ・危機を問われる問題はいつも起きている
- ・ロータリーには無いというのは幻想である
- ・皆そのことを知りながら長い間黙認してきた
- ・しかし“された者”の沈黙の時代は終わった
- ・“した者”は“された者”への適切な対応を迫られている
- ・“された者”と“した者”との認識の違いを埋めること、そして認識の違いを生じさせないことが危機管理の大きな課題

2

- ③ RI細則3.020.5.RI理事会によるしかるべき理由による懲戒、加盟停止、または終結
※聴聞の機会を与えることが必要
- (2)章典による終結
- ① 章典2.120.2-a 虐待およびハラスメントの防止と報告手続
- ② 章典26.120. 会合、行事、または活動におけるハラスメントのない環境

9

4. 危機管理を検討するに当たって

- 「ロータリー青少年保護の手引」(手引)を基として
- (1)危機とは全く予期していない時に起こるもの
- (2)即座の対応をするため、事前の準備が欠かせない
- (3)事前の準備 — 潜在的なリスクを特定し、危機管理(マニュアル)の手順を前もって作成する
- (4)事故が発生したときは、
- ①迅速に行動する
- ②情報連絡網を一本化し、責任者が全情報を把握する

10

そもそもロータリアンはどうあるべきか

- 1.「ロータリアン行動規範」(章典8.030.2.)

ロータリアンとして私は以下のように行動する

- 1)個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準をもって行動する。
- 4)ロータリーやほかのロータリアンの評判を落とすような言動は避ける
- 5)ロータリーの会合、行事、および活動においてハラスメントのない環境を維持することを支援し、ハラスメントの疑いがあれば報告し、ハラスメントを報告した人への報復が起こらないよう確認する

3

- ・行動規範はロータリアンの公私に亘る行動に適用されるものであって、ロータリー活動に限定されない

- ・刑事事件における行為者の責任判断基準は一般人であるが、ロータリーにおけるロータリアンの行動の評価基準はロータリアンの行動規範による

- ・規範(code)の規範力の強さと、違反の場合の意味を理解する必要がある

4

5. 危機の種類(手引15頁)

- ・事 故
- ・暴 力
- ・自然災害
- ・政情不安
- ・疾患の発生

11

ハラスメントの関連規範と注意点

- 1.「青少年と接する際の行動規範に関する声明」
(Statement of Conduct for Working With Youth 章典2.120.1.(Jun. 2002~Oct. 2019))
- 国際ロータリーは、ロータリーの活動に参加する全ての青少年のために安全な環境をつくり、これを維持するよう努める。ロータリアン、そのパートナー、その他のボランティアは、接する児童および青少年の安全を考え、肉体的、性的、あるいは心理的な虐待から身の安全を守るため、最善を尽くさなければならない。

12

2.ロータリークラブの主な規範

- (1)ロータリークラブはRI定款及びRI細則に定められた義務をたゆまず遂行することを条件としてRIIに入会している(RI定款5条1節)

※RCはRIとの間でRIの組織規定文書(RI定款、細則、標準クラブ定款)(章典1.040.4.)とその補足であるロータリー章典(章典1.050.)を順守することを合意している一入会契約の条件であるから、違反があればペナルティもある

5

- (2)章典2.010.(RIへのクラブの加盟)
- 2.010.1.機能の喪失(2019年10月理事会会合、決定48号)
- RI細則に従い、RI理事会は、当組織の全ての加盟クラブが確実に機能しているよう配慮する責任があり、機能しているクラブを次の様に定義する。
7. 国際ロータリーの定款、細則、およびロータリー章典に矛盾しない方法で活動していること。
8. ロータリー章典に規定されている通り、ハラスメントを自ら認め、あるいは有罪を宣告され、あるいはそれに関与したと認められた会員を退会させるというRI理事会の要請に従っていること。

6

2.危機管理の主な対象活動

- 〔青少年活動〕
- (1)地区関係
- ①ロータリー青少年交換(RIプログラム)
- ②青少年奉仕プログラム(RIプログラム)
- ③インターアクト
- ④RYLA
- ⑤米山奨学生
- ⑥財団奨学生、VTT
- ※ローターアクト

13

- (2)クラブ関係
- ①地区青少年活動プログラム関連事業
※地区と共同
- ②クラブ独自の青少年活動事業
※地区補助金対象プログラム、他クラブとの共同事業などを含む
- ③他団体との共同青少年活動事業
※共催型と後援型
- 〔成人活動〕
- (1)成人の青少年
- (2)ロータリアン、ローターアクト、ロータリーファミリー間のハラスメント
※危機管理総則第1条との関係
- (3)ロータリークラブ等の事務局員との関係
- (4)地区、クラブの地域活動参加者との関係

14

11. クラブ内の論争を友好的な方法で解決すること
12. 地区と協力関係を維持していること
- 各ガバナーは上記の基準に基づき、機能していない地区内のクラブを特定するものとする。
- ロータリーのシニアリーダーもまた、観察によってクラブが機能していないことに気付いた場合には、それを報告するよう推奨されている(2019年10月理事会会合、決定48号)

7

3. RI細則・章典によるロータリークラブ等の終結

- (1)RI細則3.020.理事会によるクラブ等の懲戒、加盟停止、または終結
- ① RI細則3.020.1.加盟停止または終結
RI理事会は同項(a)~(d)に定める理由による加盟停止、終結することができる
- (b)TRF資金管理方針違反
- (c)青少年保護規定違反
- ② RI細則3.020.3.機能の喪失による終結
「RI理事会は機能を停止し、または例会を定期的に行わず、その他の機能を遂行できなくなったクラブ」を終結することができる

8

3.危機発生の予防

- (1)事業活動の場合
- ①発生しうる危機の事前想定
- ②継続事業の場合、過去の経験に基づく
- ③初めての事業の場合、同種事業実施団体(個人)から情報入手
- ④事業計画と想定しうる危機についての事前説明オリエンテーションなどの説明会の開催
- ⑤事業参加者についての事前調査
- ⑥病歴など
- ⑦実施場所の事前調査と実施期間の気象予想等
- ⑧継続的危機に対する対応方法の検討

15

- (2)日常活動の場合
- ①問題発生の可能性のある行動(会員間や事務局員に対するハラスメント)には被害者からの申し立てによる造もなく、状況を把握すること
- ②ハラスメントの虞れが見受けられた時は、観察を始め事前に対策を協議する。但し、協議者を誰とするかは慎重に判断する
- ③金銭管理については、①単独の担当者に委せ切りにしない、②金銭移動の可視化を徹底する、③金銭問題の不正は直ちに民・刑事上の違法問題となることに注意
- 財団補助金プログラムの管理方法が基準

16

これからの RYLA と危機管理

4. クラブの危機管理委員会

- ①危機は突然発生する場合も、発生して当然の場合もある
- ②いずれの場合であれ、危機の発生に対し即時に対応しうるか
- ③即時対応する為には対応しうる知識の集積と集積・対応しうるシステム作りが必要
- ④③のシステムの1例が危機管理委員会

17

5.ロータリー活動の危機管理・「章典」より

- (1)「虐待およびハラスメントの防止と報告手続き」
章典2.120.2. (Jan 2020)
- 1.「RIは、虐待およびハラスメントに対して、いかなる違反も法規適用する方針（ゼロ容認方針）を有する。」
 - 2.ガバナーエレクトの青少年保護に関する研修義務（ガバナー就任以前）
 - 3.地区の青少年保護方法の立案と実施義務
 - 4.72時間ルール
 - 5.申立についてゼロ容認方針に則り、法執行機関に報告する義務（must）
 - 6.性的虐待、ハラスメント申立があった場合、第三者による徹底した調査を行う義務がある（must）
 - 7.被疑者となったロータリー青少年プログラム関与の成人は問題解決迄青少年との接触は禁止（must）

18

6.ハラスメントの場合の対応

- (1)申立があった場合
- ①青少年の場合
 - ①章典2.120.2.（虐待およびハラスメントの防止と報告手続）による
特に72時間ルールに注意
 - ②青少年の年齢は定められていない
 - ③申立の内容が不明確な場合は判断を慎重に

25

(2) 青少年以外の場合

- ①章典26.120.（会合、行事または活動におけるハラスメントのない環境）による
- ②72時間ルールはないが申し立てに対する判断は1ヶ月以内
- ③申立者の納得が行かない場合の措置に注意

26

8. ①容疑を認め、あるいは有罪とされ、あるいは被疑事実に関与したと認められる全てのロータリアンについて、クラブはその会員の身分を終結させなければならない（must）
- ②容疑を認め、あるいは有罪とされ、あるいは被疑事実に関与したと認められる非ロータリアンについては、ロータリーが関与することを禁じられる
- ③クラブは性的虐待、ハラスメントに関わった者を会員として認めるべきではない（may not）
- ④RI理事会は、クラブが故意に会員の身分終結措置をしなかった場合、当該会員の身分終結をする措置と併せて、方針の順守を怠ったことを理由として、クラブの加盟を終結する措置を講じる

19

- (2) 青少年の旅行および宿泊 章典2.120.3. (Dec.2019)
- クラブと地区のプログラムや活動で、未成年者が地元地域の外に旅行や宿泊するとき
は、青少年保護方針と書面による手続きを作成し、維持し、またこれを順守しなければならない。
- ・青少年交換の旅行は章典41.060.節「青少年交換」に概説されている方法に準拠する
 - ・クラブと地区の義務の具体的内容
- ①青少年参加者の保護者から事前に書面で許可を得る（Shall）
 - ②保護者に対して、出発前にプログラムの詳細、開催場所、旅行目的、宿泊設備、プログラム参加者への連絡先の告知（shall）

20

- 7.申立がなされたときの注意点
- ①地区、RIJYMに報告、相談する
 - ②判断は申立てられた側に不利な観点からも行う。有利な観点からの判断は身びいきで終わりにしない
 - ③72時間ルールの適用がある場合、全く時間的余裕は無い
 - ④申立てする側は、申立を受けたクラブや地区の動きとは関係なく、地区、RIと協議をしているものと想定する必要がある（被害者の方は状況がシリアスである）

27

8.危機管理問題に対応するに当たって

- ・「多分起こらないだろう」、「滅多には起こらないだろう」という態度は避ける
- ・「想定外」は「想定しない」、「想定する必要がある」から生じる
- ・危機管理問題が生じないのは単にその発生を知らないだけかもしれない
- ・生じた問題の解決済みは、そう思っているだけかもしれない
- ・危機状態が長期継続する場合には状況に応じた迅速かつ柔軟な対応が必要となる
問題となるのは判断基準をどの様に考えるかである

28

2.120.3. 続き

- ③未成年者が国外または自宅から150マイル（≒241km）以上離れた場所に旅行する場合、未成年者の保護者が旅行保険を掛ける様に義務づけるべきである（should）
- ※インターアクト 41.010.3.と同趣旨
- (a) 補償内容「医療（母国を離れる旅行の場合）、緊急医療移送、遺体の本国送還、法的責任を含むもの
 - (b) 補償額「活動または行事を主催するクラブまたは地区にとって満足なもの」
 - (c) 補償期間「未成年者が自宅を出発し、自宅に帰るまで」とする

21

(3)「会合、行事または活動におけるハラスメントのない環境」章典26.120. (Dec.2019,Jan.2020)

- ・旧2.120.（2017年6月理事会決定）を削除し、第2章「ロータリークラブ」から第4章「管理運営」へ移動
- ・ハラスメントを含む不適切な行動が生じた場合の、クラブ、地区、ゾーン、RI理事会の義務とペナルティーを規定
- ・被害者の対象は青少年に限られない
- ・クラブレベルでの危機管理体制確立が必要

22

・「ハラスメント」の定義

ハラスメントとは大まかに定義すると、個人またはグループを、あらゆる特性（年齢、民族、人種、肌の色、能力、宗教、社会経済的地位、文化、性別、性的指向、または性自認）に基づいて、言葉であれ身体的であれ、中傷、侮辱、または攻撃する言動を指す。

23

・被害者から申立があった場合の対応と不服

- ①申立についての判断主体
 - ・クラブ 理事会 → ガバナー
 - ・地区 ガバナーorガバナーに任命された委員会 → RI事務総長
 - ・ゾーン RI理事orRI理事に任命された委員会 → RI会長
- ②回答期限
妥当な期間（通常は1ヵ月）

24

御清聴ありがとうございました。

29

大会参加者数

第2500地	9名	第2710地	1名
第2510地	48名	第2720地	1名
第2530地	11名	第2730地	3名
第2550地	7名	第2740地	5名
第2570地	1名	第2750地	3名
第2580地	4名	第2760地	9名
第2590地	2名	第2770地	1名
第2660地	4名	第2780地	2名
第2670地	1名	第2800地	2名
第2680地	15名	第2820地	1名
第2690地	3名	第2830地	4名
第2700地	1名	RIJYEM事務局	3名

合計 199 人
(会場 141 名・オンライン 58 名)

第 15 回全国 RYLA 研究会役員

大会役職	所属クラブ	RC 役職	氏 名
大会会長	岡山南	RI 理事	佐藤 芳郎
大会副会長		RI 理事ノミニー	水野 功
特別顧問	姫路	TRF 管理委員	三木 明
顧問	姫路	RID2680 パストガバナー	安平 和彦
顧問	三田	RID2680 ガバナーエレクト	安行 英文
顧問		RIJYEM 理事長	上山 昭治
顧問	西宮イブニング	RIJYEM 研究部門委員・危機管理担当	黒田 建一
顧問	市原	RIJYEM 事務統括・保険管理担当	津留 起夫
ホスト地区代表	札幌西	RID2510 ガバナー	石丸 修太郎
ホスト地区副代表	小樽南	RID2510 ガバナーエレクト	松浦 光紀
ホスト地区副代表	札幌北	RID2510 ガバナーノミニー	出村 知佳子
実行委員長	札幌幌南	RID2510 パストガバナー	羽部 大仁
副実行委員長	札幌幌	RID2510 パストガバナー	小山 司
副実行委員長	札幌手稲	RID2510 パストガバナー	福井 敬悟
副実行委員長	札幌幌南	ホストクラブ 札幌幌南ロータリークラブ会長	伊藤 利道
副実行委員長	札幌幌	コ・ホストクラブ 札幌ロータリークラブ会長	大原 雅
幹事	札幌幌南	RID2510RYLA 委員長	斉藤 朋博
副幹事	岩見沢	RID2510 前 RYLA 委員長・ 岩見沢ロータリークラブ会長	西方 洋昭
副幹事	恵庭	RID2510 青少年奉仕委員長	西村 英晃
副幹事	札幌東	RID2510 前青少年奉仕委員長	山口 史朗
委員	札幌幌南	ホストクラブ 札幌幌南ロータリークラブ直前会長	大作 佳範
委員	札幌幌南	RID2510 クラブ奉仕委員長	北川 好和
委員	札幌幌南	ホストクラブ 札幌幌南ロータリークラブ幹事	荒木 俊和
委員	札幌幌南	ホストクラブ 札幌幌南ロータリークラブ	高橋 恵
委員	札幌南	RID2510 青少年交換委員長	池田 達昭
委員	札幌幌南	RID2510 ローターアクト委員長	高橋 耕
委員	札幌東	RID2510 インターアクト委員長	福見 隼人
委員	岩見沢ネクスト	RID2510RYLA 委員・ RYLA 学友会会長	佐藤 直輝
委員	岩見沢東	RID2510 職業奉仕委員長	長田 正文

第15回全国RYLA 研究会ホストクラブ委員会

札幌幌南ロータリークラブ

委員会役職	氏 名
委員長	伊藤 利道
副委員長	荒木 俊和
委員	池戸 恵子
	蝦名 大典
	大作 佳範
	加賀 謙二
	加藤 康夫
	北川 好和
	工藤 元紀
	小里 学
	小林 麻由美
	斉藤 朋博
	佐藤 祐一郎
	里見 英樹
	島田 学
	菅野 亮
	高橋 耕
	高橋 恵
	中村 笛美
	長沢 祐純
	羽部 大仁
	深貝 亨
	舩田 雅彦
	森 剛
	森尾 薫

アンケート調査報告

2023.5月開催 全国RYLA研究会テーマに関するアンケート
途中集計報告

RIJYEM 事務局

1) 分科会テーマについて、アンケートを取りました。(賛成%)

- 5-1) テーマ1. RYLAプログラムの基礎について : (82%)
5-2) テーマ2. RYLAプログラム開発について : (68%)
5-3) テーマ3. カウンセラーシステムについて : (78%)
5-4) テーマ4. RYLA学友会について : (68%)

結果 4つのテーマは、それぞれ分科会のテーマにふさわしいとされました。

2) それぞれのテーマについてご意見をもらっています。
主だったものを列記します。(全体は添付資料参照)

5-1) テーマ1. RYLAプログラムの基礎について

- ・基礎を共有することで地区間の格差がなくなり、共通の目標を共有できる
- ・基礎をしっかりと理解しないと次へは進めません。基礎が一番大切ではないでしょうか。
- ・RYLAの手引きはあるが、既に各実施地区にて独自のプログラムにて開催されており、いつも各地区の実施内容の報告にて終わってしまっている。実施効果についての検証が出来ず、結局いつも原点に戻るだけに思える。
- ・RYLAを通じて、ロータリーの価値観や文化をいかに伝えていくかの基本姿勢の議論に興味があります。

5-2) テーマ2. RYLAプログラム開発について

- ・決まったものを当てはめていくイメージがあるので、開発の真意が楽しみです。
- ・他地区の優れたプログラムを学び自地区に活かせるのが素晴らしい。
- ・例年の焼きましではなく青少年が今後の社会活動に役立てるものになりたい
- ・例年プログラムに困るので、各地区の実施内容を共有したい。
- ・ベーシックだけれど新しいプログラムが理想

5-3) テーマ3. カウンセラーシステムについて

- ・RYLAのロータリアンの役割の中で「花形」の仕事であり大切なテーマと考えます。
- ・冷静かつ第三者の目であり、ロータリーの見地から見守り可能なので、良い。
- ・カウンセラーの育成が必要と思う。では、誰が育成するのか未経験です。
- ・カウンセラーは奥が深く、またRYLAを知らないロータリアンにRYLAの意味を広げることができるのでとてもいいことだと思います。
- ・本来あるべきカウンセラーの在り方についての統一見解は必ず必要だと思います。あまりにもロータリアンが直接に関わり過ぎたり、議論を誘導してしまったりなど受講生主体が原則でカウンセラーも見守りながらグループの熟成こそがカウンセラーの仕事です。

アンケート調査報告

5-4) テーマ 4. RYLA 学友会について

- ・学友会の活動事例などを学びたいです。
- ・当地区は、学友会の設置、運営、発展等取組む課題は山積しているものの、必要性は十分にあると考えています。今後のロータリー、ロータリーファミリーの進展に繋がると確信しています。
- ・先にロータリアンに RYLA を広めることが先のように思います。そのことで研修生が変わり学友会の繋がれるのではないのでしょうか。
- ・ワンショットセミナー（1 泊 2 日）であるため RYLA への帰属意識は醸成しづらく組織化したとしても希薄化するのではないかと思う。余島ぐらいの密度がないと上手く機能しないのではないだろうか。
- ・当地区は RYLA だけの学友会ではなく、全プログラムを統合にした学友会です。RYLA の参加をきっかけに様々なロータリープログラムやローターアクトとのクロスプロモーションが出来るような学友会活動についてセッションしてみたいと存じます。

6) 他に分科会テーマがございましたらお願いします。

- ・特別講義の講師の選定方法について
- ・多種の国からの見解の相違をあげて、お互いの誤解を解いていく。
- ・ロータリーの中核的価値観とロータリーの世界観を知り学ぶ。
- ・「危機管理について」というテーマ

7) その他、全般についてご意見をお伺いします

- ・RYLA が Awards すなわち「表彰」なのか、「研修」なのか分かりづらい点が難点であると考えています。当地区 RYLA 委員会では、地区内のクラブに地域や社会でリーダーシップを発揮している“表彰に値する”受講生を推薦していただきたいと思いますと考えていますが、クラブにはなかなか理解されない実態があります。
クラブからどの程度のレベルの受講生が推薦されてくるかによっても提供すべきプログラムの内容は変わってきます。推奨されるレベル感としては、ロータリーファミリーでは ROTEX や米山奨学生、財団奨学生のレベル感を想定しています。
日本固有の（？）「RYLA セミナー」という行事名称の表現についても、誤解を招く表現だと思います。RYLA は（プログラム名称の通り）セミナーではなく Awards であるはずです。
また、クラブから推薦される受講生の質が年々低下していることも当地区の課題です。誰でも参加できるようなプログラムですと、参加される受講生も表彰されるありがたみが薄れると思います。東京では民間が実施しているリーダーシッププログラムも数多くあり、競合は多いと思います。ロータリーの独自性を保ちながら受講生の質を保つことが重要であると考えています。
当地区では例年、18 歳～30 歳を対象に RYLA を実施してきましたが、今年度は地区青少年交換委員会と合同で 15 歳～18 歳の中学高校生向けの International RYLA も実施する予定です。
- ・RYLA に興味ない方もこの研究会に参加すれば RYLA の素晴らしさが分かります。そういう方々が振るって参加して頂けるようなアナウンスをして頂きたいです。

アンケート調査報告

- ・RYLA 研究会は RYLA を学ぶ大切な時間だと思います。多くのロータリアンに出席していただきたいです。
- ・実施するにあたり各種プログラムの実施手順書などがあれば、これから導入する地区もハードルが下がるのではないのでしょうか。
- ・RYLA は素晴らしい活動です。継続が必要。
- ・RYLA を広くロータリアンに知らしめたい。

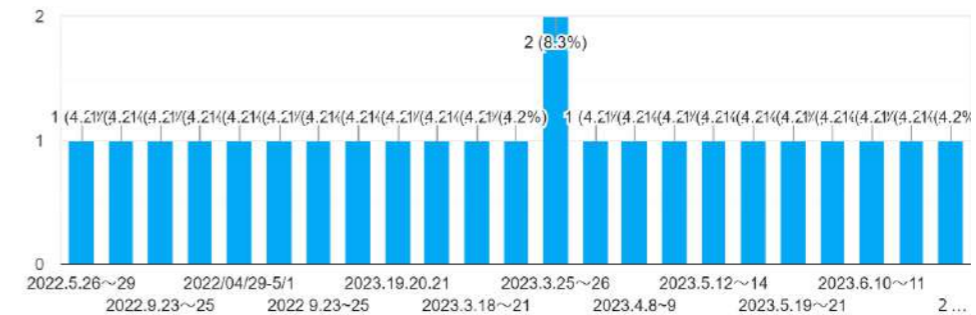
資料（Google フォームの転記）

4) RYLA 周辺情報についてお尋ねします。

4-1) RI 青少年プログラムが COVID-19 感染拡大で中止になっている場合が多くありますが、今年度あなたの地区では、RYLA は実施しましたか、または予定はありますか？

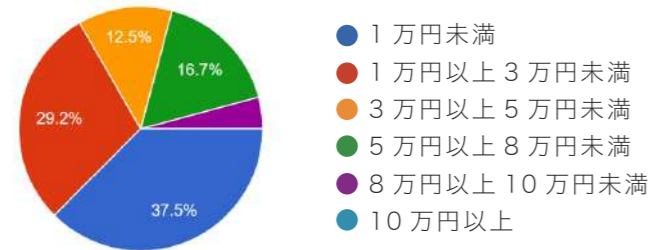


4-2) 「実施した または 実施予定がある」と回答の場合：実施日を教えてください。

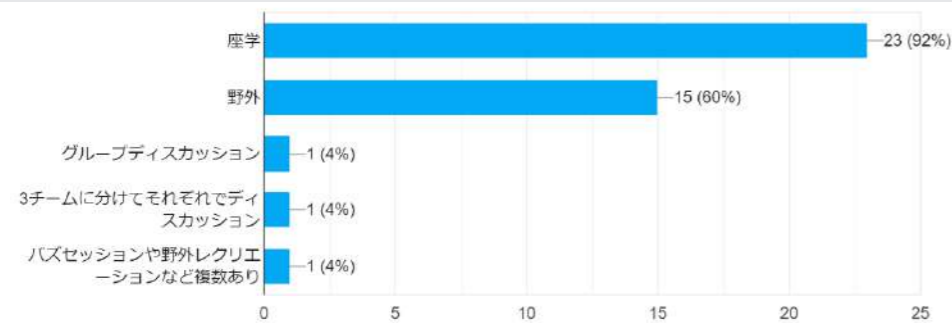


アンケート調査報告

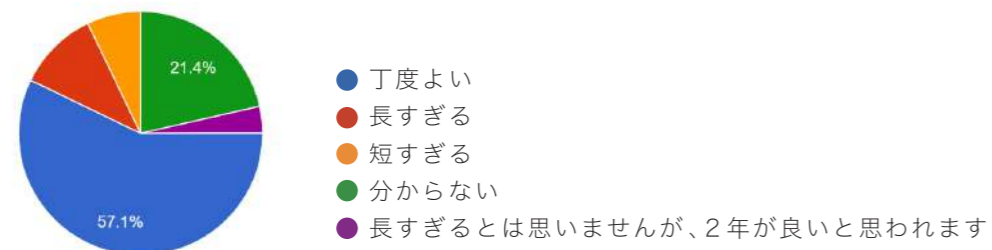
4-4)「実施した または 実施予定がある」と回答の場合：登録費について教えてください。(予定も可)



4-5)「実施した または 実施予定がある」と回答の場合：実施形態について教えてください。(複数回答可)



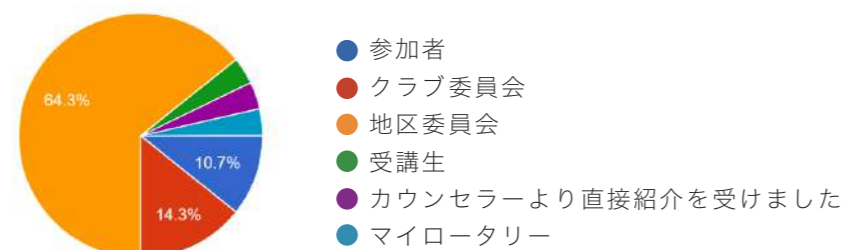
4-6) ロータリー章典には「地区RYLA委員長の任期は3年」と推奨されていますが、これについてどのように感じますか。



5) 分科会テーマについてお尋ねします

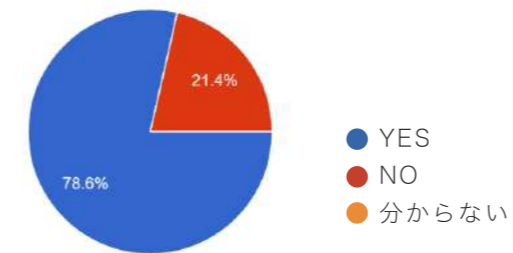
5-1) テーマ1.RYLAプログラムの基礎について

5-1-1) RYLAプログラムをどこで知りましたか。

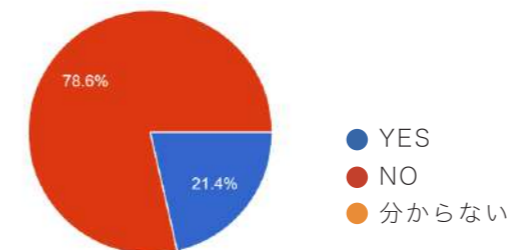


アンケート調査報告

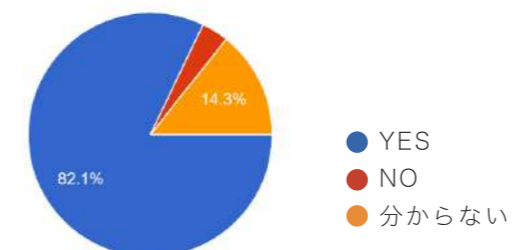
5-1-2) RYLAの手引き(694-JA-721版)を知っていますか。



5-1-3) RYLAの手引きをテキストにした講習を受けましたか。



5-1-4)「RYLA プログラムの基礎について」は分科会テーマとしてふさわしい。



5-1-5) このテーマについてご意見をください。

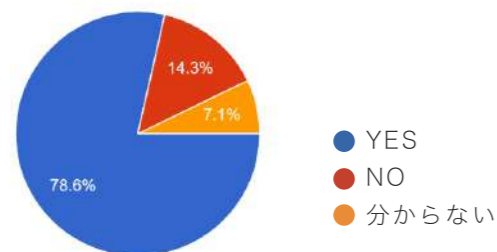
- ・ 基礎を共有することで地区間の格差がなくなり、共通の目標を共有できる
- ・ 地区ごとで実施方法が異なるので、基本に振り返って各地区の話を聴くのは意義がある。
- ・ リーダーとなる資質を発見できるが、もっと長い目で見る必要あり。
- ・ 目的を良く理解することは必要
- ・ 基礎的な内容として必要と思います。
- ・ 青少年奉仕プログラムの基幹であるためしっかり基礎について知って頂きたい。
- ・ ライラセミナーの意義と効果をクラブ会員により良く認識していただきたい
- ・ 基礎をしっかりと理解しないと次へは進めません。基礎が一番大切ではないでしょうか。
- ・ ロータリアンが学ぶ部分が必要と思う。

アンケート調査報告

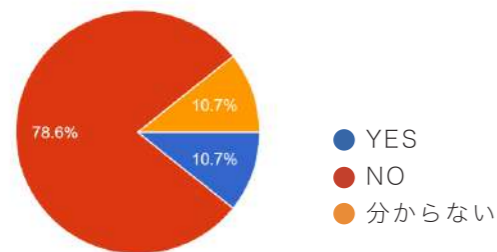
- ・ RYLA の手引きはあるが、既に各実施地区にて独自のプログラムにて開催されており、いつも各地区の実施内容の報告にて終わってしまっている。実施効果についての検証が出来ず、結局いつも原点に戻るだけに思える。
- ・ 将来 DL になるのに必要なので早めに研修に取り入れることに賛成
- ・ 基本的な事柄をていねいにご指導いただければと存じます。
- ・ RYLA を通じて、ロータリーの価値観や文化をいかに伝えていくかの基本姿勢の議論に興味があります。
- ・ 良いと思う
- ・ RYLA について研修希望

5-2) テーマ2.RYLAプログラム開発について

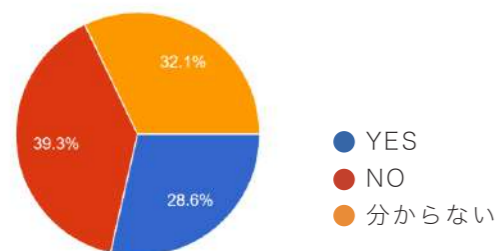
5-2-1) D2680余島のキャンプRYLAセミナーを知っていますか。



5-2-2) D2790 ウォークラリーRYLAセミナーを知っていますか。

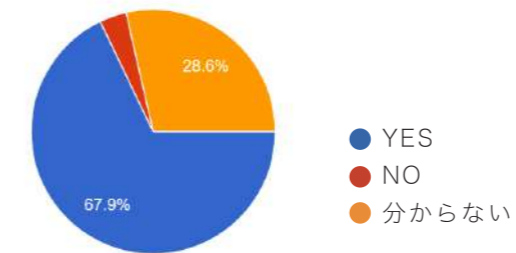


5-2-3) 斬新なRYLAセミナーを考えていますか。



アンケート調査報告

5-2-4) 「プログラム開発について」は分科会テーマとしてふさわしい。

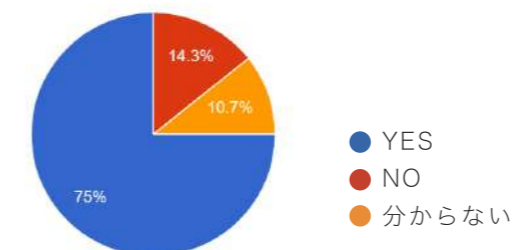


5-2-5) このテーマについてご意見をください。

- ・ 決まったものを当てはめていくイメージがあるので、開発の真意が楽しみです。
- ・ 地区ごとで取り組んできた歴史が異なるので、そこを踏まえた「開発」になると思います。
- ・ 意味不明です。
- ・ 絶えず進化、進歩することが大切
- ・ それぞれの地域（地区）で手段や方法が違っていると認識してます。推奨出来るプログラムがあれば参考にしたいと思います。
- ・ 他地区の優れたプログラムを学び自地区に活かせるのが素晴らしい。
- ・ 例年の焼きましではなく青少年が今後の社会活動に役立てるものとしたい
- ・ 基礎を外さないとしても、出来ることは多くあると思います。皆様の知恵を終結するいい機会になると思います。
- ・ 例年プログラムに困るので、各地区の実施内容を共有したい。
- ・ 地区にて色んなやり方があって良いと思う。
- ・ プログラム開発のテーマは専門的な知識とプログラム内容と効果を熟知していないと難しいテーマで、議論が進むのか不安を感じます。
- ・ 地域に適していない
- ・ とくにありません
- ・ 受講生の自主性や社会奉仕の心の掘り起こし、賞賛する仕組み造りに興味があります。
- ・ ベーシックだけれど新しいプログラムが理想

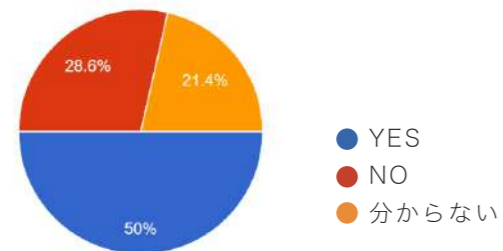
5-3) テーマ3.カウンセラーシステムについて

5-3-1) カウンセラーを付けますか

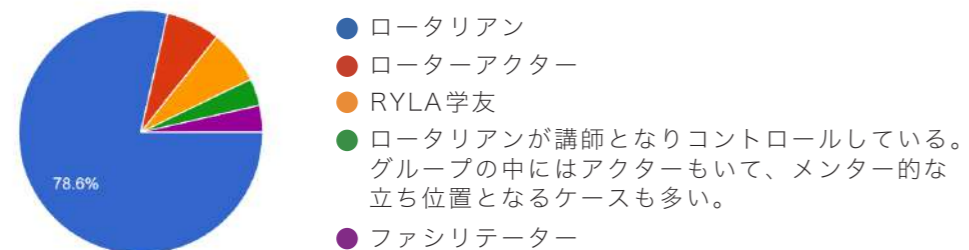


アンケート調査報告

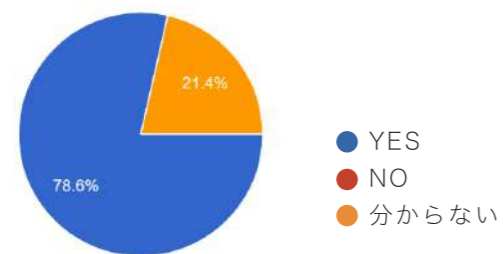
5-3-2) カウンセラーは事前に講習を受けますか。



5-3-3) カウンセラーはどなたにお願いしますか。



5-3-4) 「カウンセラーシステムについて」は分科会テーマとしてふさわしい。



5-3-5) このテーマについてご意見をください。

- ・ RYLAの最も重要な要素の1つですので欠かせないと思います。
- ・ RYLAのロータリアンの役割の中で「花形」的仕事であり大切なテーマと考えます。
- ・ 冷静かつ第三者の目であり、ロータリーの見地から見守り可能なので、良い。
- ・ カウンセラーはロータリアンに限る必要はない
- ・ カウンセラーの育成が必要と思う。では、誰が育成するのか未経験です。
- ・ ロータリーの理念を青少年にお伝えするには相応しいと思う。
- ・ 青少年の模範としてのスキル向上の場にしたい
- ・ カウンセラーは奥が深く、またRYLAを知らないローラリアンに RYLA の意味を広げることができるのでとてもいいことだと思います。
- ・ カウンセラーする方は、しっかり研修して行くと良いと思うんです

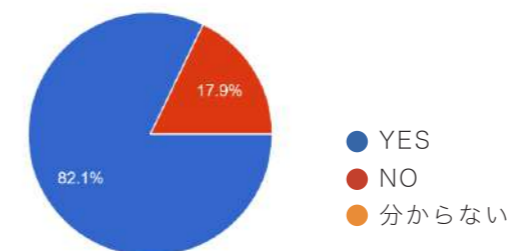
アンケート調査報告

- ・ 本来あるべきカウンセラーの在り方についての統一見解は必ず必要だと思います。あまりにもロータリアンが直接に関わり過ぎたり、議論を誘導してしまったりなど受講生主体が原則でカウンセラーも見守りながらグループの熟成こそがカウンセラーの仕事です。
- ・ カウンセラーでなくファシリテーター
- ・ とくにありません
- ・ セオリーも大切ですが、カウンセラーの実体験による苦悩や達成感などの共有も必要だと思います。
- ・ 良いと思う

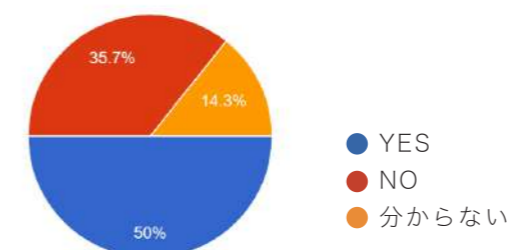
5-4) テーマ4.RYLA学友会(※)について

※RI青少年プログラムに参加した青少年をロータリー学友としています。

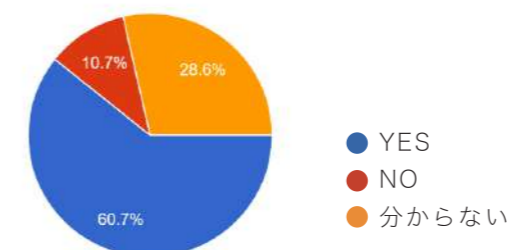
5-4-1) RYLA学友会を知っていますか。



5-4-2) 地区にRYLA学友会組織がありますか。

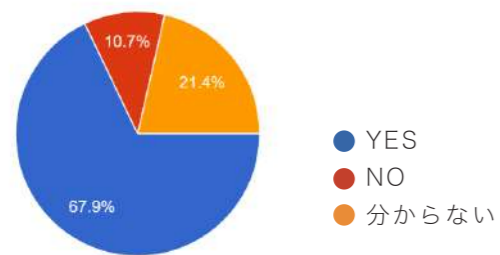


5-4-3) RYLA学友会を組織したいですか。



アンケート調査報告

5-4-4)「RYLA学友会について」は分科会テーマとしてふさわしい。



5-4-5) このテーマについてご意見をください。

- ・学友会の活動事例などを学びたいです。
- ・今後 2580地区でも立ち上げる予定であり、他の地区の活動を参考にしたいと考えます。
- ・ライラリアンとの繋がりがお互いの成長にとって大切
- ・当地区は、学友会の設置、運営、発展等取組む課題は山積しているものの、必要性は十分にあると考えてます。今後のロータリー、ロータリーファミリーの進展に繋がると確信してます。
- ・将来、ロータリアンになって頂く礎となるためしっかりと議論して頂きたい。
- ・特に無し
- ・先にロータリアンにRYLAを広めることが先のように思います。そのことで研修生が変わり学友会の繋がられるのではないのでしょうか。
- ・ワンショットセミナー(1泊2日)であるためRYLAへの帰属意識は醸成しづらく組織化したとしても希薄化するのではないかと思う。余島ぐらゐの密度がないと上手く機能しないのではないだろうか。
- ・考えるべきである。
- ・ロータリアン、ローターアクターは地区ですでにつながっている
- ・とくにありません
- ・当地区はRYLAだけの学友会ではなく、全プログラムを統合にした学友会です。RYLAの参加をきっかけに様々なロータリープログラムやローターアクトとのクロスプロモーションが出来るような学友会活動についてセッションしてみたいと存じます。
- ・先日、当地区2680RYLA学友会総会にて、私が行った講演で我々の活動についてお話しさせて頂きました。録音の質に難がありますが、ご参考いただければ幸いです。会長講演阪本 <https://youtu.be/mK4gbe43x-Q> 上記のものは会員(リンクを知っている方)のみの限定公開になっております。学友としては、他地区の学友との交流に興味があります。
- ・良いと思う

6) 他に分科会テーマがございましたらお願いします。

- ・特別講義の講師の選定方法について
- ・多種の国からの見解の相違をあげて、お互いの誤解を解いていく。
- ・ロータリーの中核的価値観とロータリーの世界観を知り学ぶ。
- ・「危機管理について」というテーマ

アンケート調査報告

- ・特に無し
- ・とくにありません
- ・特にありません。
- ・ロータリアンの成長の機会について

7) その他、全般についてご意見をお伺いします。

- ・皆さんとたくさんの意見、情報交換が出来ればと思います。
- ・RYLAは大切な部門だし、テーマや切り口を変えていけば、展開が可能。
- ・RYLAがAwardsすなわち「表彰」なのか、「研修」なのか分かりづらい点が難点であると考えています。当地区RYLA委員会では、地区内のクラブに地域や社会でリーダーシップを発揮している”表彰に値する”受講生を推薦していただきたいと思います。クラブにはなかなか理解されない実態があります。クラブからどの程度のレベルの受講生が推薦されてくるかによっても提供すべきプログラムの内容は変わってきます。推奨されるレベル感としては、ロータリーファミリーではROTEXや米山奨学生、財団奨学生のレベル感を想定しています。日本固有の(?)「RYLAセミナー」という行事名称の表現についても、誤解を招く表現だと思います。RYLAは(プログラム名称の通り)セミナーではなくAwardsであるはず。また、クラブから推薦される受講生の質が年々低下していることも当地区の課題です。誰でも参加できるようなプログラムですと、参加される受講生も表彰されるありがたみが薄れると思います。東京では民間が実施しているリーダーシッププログラムも数多くあり、競合は多いと思います。ロータリーの独自性を保ちながら受講生の質を保つことが重要であると考えています。当地区では例年、18歳～30歳を対象にRYLAを実施してきましたが、今年度は地区青少年交換委員会と合同で15歳～18歳の中学高校生向けのInternational RYLAも実施する予定です。
- ・開催地区の為、部分的な解答になり失礼しました。引き続きどうぞ宜しくお願い致します。
- ・全国RYLA事務局の設置と運営に力を注いで欲しい。地区へのサポートもお願い申し上げます。
- ・RYLAに興味ない方もこの研究会に参加すればRYLAの素晴らしさが分かると思います。そういう方々が振るって参加して頂けるようなアナウンスをして頂きたいです。
- ・特に無し
- ・RYLA研究会はRYLAを学ぶ大切な時間だと思います。多くのロータリアンに出席していただきたいです。
- ・実施するにあたり各種プログラムの実施手順書などがあれば、これから導入する地区もハードルが下がるのではないのでしょうか。
- ・RYLAは素晴らしい活動です。継続が必要
- ・とくにありません
- ・関係ロータリアンの皆様のRYLAに対しての情熱に感服、感謝しております。今後とも何卒よろしく願いいたします。
- ・RYLAを広くロータリアンに知らしめたい

アンケート調査報告

2023年6月10日(土)～11日(日) 2日間

▼回答者役職分布(28名)

RYLA 委員長 (11名) RYLA 委員 (6名) 地区委員会 (RYLA 以外) (3名) ガバナー、P D G, G N (5名)
RYLA 学友 (3名)

▼RYLA実施カレンダー(18地区、延べ56日 平均3.1日地区)

- ・ 2022/04/29～5/11 (5月連休) 3日間
- ・ 2022/9/17～19 (敬老の日連休) 3日間
- ・ 2022/9/23～25 (秋分の日連休) 3日間
- ・ 2022/9/23～25、2023/5/3～5 (秋分の日連休、5月連休) 3+3=6日間
- ・ 2022/11/12～13 (土日) 2日間
- ・ 2023/2/23～26 (天皇誕生日連休) 4日間
- ・ 2023/03/12、2023/03/25～26 (土日・春分の日連休) 1+2=3日間
- ・ 2023/3/18～21 (春分の日連休) 4日間
- ・ 2023/3/19～21 (春分の日連休) 3日間
- ・ 2023/3/25～26 (土日) 2日間
- ・ 2023/4/8～9 (土日) 2日間
- ・ 2023/4/15～16、4/22～23 (土日) 2+2=4日間
- ・ 2023/5/12～14 (金土日) 3日間
- ・ 2023/5/13～15 (土日月) 3日間
- ・ 2023/5/19～21 (金土日) 3日間
- ・ 2022/5/26～29 (金土日月) 4日間
- ・ 2023/5/27～28 (土日) 2日間
- ・ 2023/6/10～11 (土日) 2日間

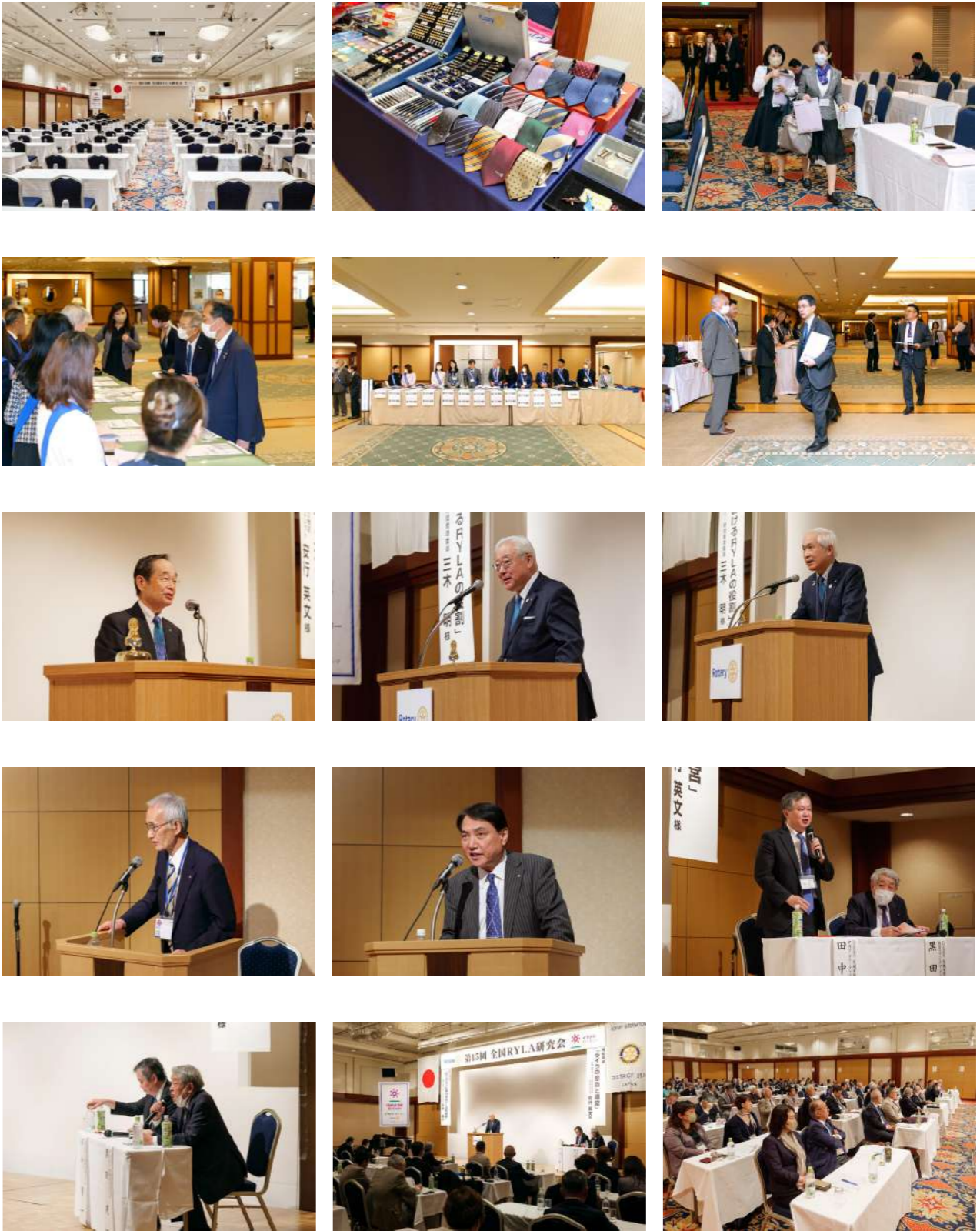
▼参加人数(19地区)

参加者合計 964 名
平均=50.7人 / 地区

▼回答者地区番号(19地区)

2510 2550 2580 2640 2750 2540 2660 2760 2740 2670 2500 2770 2730
2700 2720 2680 2530 2650 2800

会場



会場

